

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

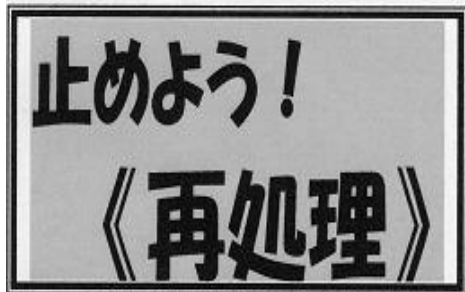
郵便振替 02240-5-102650

《再処理 / 岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k\_mag



《天恵の海》

2009(平成21)年

6月 5日

第72号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

# 再処理工場の稼働凍結を! 高レベル廃液の安全管理を!

## 全国署名始まる



青森の海の幸・山の幸をずっと食べ続けたいのに…。  
今こそ勇断を! 多くの命と自然を守るために…。



『メッセージカード』  
「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する  
全国ネットワーク・発行



この国を命と健康で守りたい

盛岡の市民集会で  
全国署名を提起

今年二月、盛岡市で「六ヶ所村ラプソディ」東日本市民サミットと銘打った集会が開催され各地から市民約一七〇人が集まりました。再処理工場から、下北の海や青森の空に放出され続けている放射能について考え、語り合い、何とかしよう、四つのアクションプランが採択されました。その一つがこの「全国署名」です。

とんでもなく危険な状態にある再処理工場。このまま本格操業に入れば、世界に名だたる三陸の漁場にも放射能汚染が広がります。ガラス溶融炉はトラブルの連続で、見通しもつかずに作られた高レベル放射性廃液はすでに、小学校プール一杯分にも当たる二四〇立方メートル溜まっており、その数パーセントでも漏れば、地球規模の汚染を起こす危険があります。さらに、

タンクの直下には大地を起すかもしれない活断層があるとの新見も発表されました。

日本中の人々にこの実態を知らせよう。再処理工場のこの危険な実態を聞けば、誰もが「そんな馬鹿な!」と思うでしょう。日本中の人々に真実を伝え、再処理工場の稼働をストップさせましょう。  
立ち止まり考えるべき時  
署名の内容は

さらなる放射能汚染を防ぐために  
一、再処理工場の稼働予定を凍結すること。  
二、万が一にも高レベル廃液を環境に漏らすことのないようあらゆる方策を講ずること。

どんな立場の人達でも、危険を察知したならば、立ち止まり、引き返します。この日本列島で安心して生きていきたいと願う全ての人々に全国署名を呼びかけて、政府に稼働凍結の決断をうながそう。

# 放射能規制法制定請願と 全国署名運動に連携 豊かな三陸の海を守る会総会



## 全国署名取り組みの要領

下記「岩手の会」に連絡下されば署名用紙をお送りします。また、ホームページ「再処理・岩手の環境」から署名用紙がダウンロードできます。

### 集約団体

三陸の海を放射能から守る岩手の会

〒020-0004

盛岡市山岸6-36-8

永田文夫方

三陸・宮城の海を放射能から守る仙台の会

(わかめの会)(仙台市)

花とハーブの里(青森県六ヶ所村)

### 日程

第一次集約 8月31日

第二次集約 11月30日

12月に提出予定です。

「豊かな三陸の海を守る会」の総会が五月三十一日宮古市内磯鶏公民館で二十余人の会員を集めて開催されました。

三陸の住民への支援に  
応えよう

挨拶で田村剛一会長は、「昨年五月、四〇〇人を集めて開催された『豊かな三陸の海を守る市民集会inみやこ』は全国的に大きな反響を呼んだ。安全でおいしい海産物を生産し続けている三陸の漁業者への理解と支援のしるしである。みんなで連帯し海を末代まで守り続けよう」と挨拶しました。また、熊坂義裕宮古市長と沼崎喜一山田町長からのメッセージが披露されました。

何が起きているのか

各地で小学習会を開催  
議事では、「放射能海洋放出規制法制定請願」について、昨年までの県内三二市町村の議会採択の成果の上に、釜石市、金ヶ崎町議会へのさらなる働きかけ、全くの僅差で不採択になった岩手県議会や盛岡市議会への働きかけの続行

総会後の講演(要旨) 永田文夫氏(岩手の会)  
再処理工場の現状と展望  
私達の働きかけて、STOPの希望も

アクティブ試験はすでに延期を七回も繰り返している。ガラス溶融炉のトラブルは、白金族元素が炉底に沈殿しノズルを詰まらせ電気をショートさせるなど技術的欠陥から来ている。炉底を攪拌棒で突いたりしているうちに耐火レンガの一部がはがれ落ちた。その修復に四苦八苦している間に事もあろうに高レベル放射性廃液が、配管を伝わって一五〇リットルも漏れ出しガラス固化セル内にたまった。嚴重にコンクリートで遮蔽されているはずが、人の立ち入る隣室にまで「洗浄液」が染みだしてしまいう有様である。最近になって再処理を

推進してきた当事者の中からも見直しの意見が出始めた。元原燃サーピス社長豊田正敏氏は「このガラス溶融炉の国産の技術を採用したことについて、日本原子力研究開発機構は責任をとるべきだ」と発言し、鈴木達治郎東大客員教授は「日本も使用済み燃料の中間貯蔵施設を確保し再処理せずに廃棄する直接処分を検討をすべきだ」と語っている。

年三月、ノルウエー政府放射線防護局が「セラフイルドの高レベル放射性廃液漏れ仮想事故によるノルウエーへの影響」というシミュレーションを発表した。イギリスからの風が吹き付ける秋に重大事故が起こった場合、ノルウエー国土の1/3がチエルノブイリ事故時の「避難・永久管理区域」となり、国土のほぼ全域が日本の「放射線管理区域」に相当する汚染地となると予想している。原燃社長は定例記者会見で「八月中の工場完成(アクティブ試験終了)は大変厳しい状況だ」と述べ再開のめども示すことが出来なかった。末期的などうにもならない状況にあり、今こそ、再処理を凍結し、引き返すべきである。

を決めました。また「岩手の会」などの提起した全国署名について、賛同団体として強力に推進して行くとし、再処理工場の実態について事実に基づく理解を深めるために各地域で小学習会を開催する事としました。



### 女性サーファーが 署名提出

28日、女性サーファーが「楽しくサーフィンが出来るよう、海へ放射能を流さないで」とする署名1万6657筆を政府に提出しました。福島みずほ議員の挨拶のあと、サーファーのフラダンスが披露され担当官にもレイが掛けられました。この署名提出により前回の4万8637筆、再処理阻止全国ネット・漁業者・市民らの署名と合わせると百万筆を超えました。